

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

## 事業名 岐阜クリエイション工房事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600 (内 8224)

E-mail：[c21905@pref.gifu.lg.jp](mailto:c21905@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	3,860	0	0	0	0	0	0	4,140
要求額	8,000	3,860	0	0	0	0	0	0	4,140
決定額	8,000	3,860	0	0	0	0	0	0	4,140

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

急速に進化する社会環境の中で、県内の社会・産業が今後持続的に発展していくためには、イノベーションの源泉ともなる、斬新なコンセプトで新たな価値を生み出すための発想力・創造力 (クリエイティビティ) を持った人材の育成が必要である。

IAMAS は科学と芸術の融合を基本理念に掲げ、芸術表現やデザイン、デジタル製造において、斬新なコンセプトを表現できるクリエイティブリーダーを育成してきた。卒業生には、自らのアイデアを社会実装し、新しい分野を切り拓いてきた個人事業主や起業家も多い。

そこで本事業では、IAMAS のリソースを有効に活用しながら、次代を担う県内の若者に、IoT・AI といった最先端のテクノロジーを活かし、発想力・創造力を磨いてもらうことで、次の時代に新たな価値を創り出せる、次代のクリエイティブ人材の育成を図る。

### (2) 事業内容

次の時代に新たな価値を創り出せる、次代のクリエイティブ人材の育成のために、以下の事業を実施する。

## [事業概要]

### ○ ワークショップ：参加者 30 人

- ・ 新しい分野を切り拓いてきた IAMAS の卒業生を講師に招き、IoT・AI などの最先端のテクノロジーを活用した作品を制作するワークショップを開催し、次代を担う若者に、新たな価値を創り出すための発想力や創造力を養ってもらうとともに、起業家精神の重要性を啓発する
- ・ 高校生・大学生等の県内の若者を対象に実施

### ○ 成果発表・講評（トークイベント）：聴講者想定：200 人

- ・ ワークショップで制作した作品の発表と講評に加えて、IAMAS 卒業生である起業家や個人事業主に、価値を新たに創り出していく社会的意義や仕事観について語ってもらう
- ・ ワークショップに参加していない若者にも聴講してもらうことで、本事業の効果を波及させる
- ・ 岐阜おおがきビエンナーレと連携して実施

## (3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	96	業務旅費
消耗品費	150	資料コピー代等
役務費	33	通信運搬費
委託料	7,721	ワークショップ及び成果発表・講評運営経費
合計	8,000	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県成長・雇用戦略 2017－(2)岐阜県第4次産業革命推進プロジェクト  
(6) IAMAS での世界に通用する人づくり（科学と芸術の融合分野）

### (2) 後年度の財政負担

人材育成を一層推進する必要があるため、参加者数を増加したうえで後年度も継続的に実施

### (3) 事業主体及びその妥当性

本学が教育・研究課程で行ってきた「新たな価値を創り出せる人材」の育成は、他者をおいて実施不可能。

# 事業評価調査（県単独補助金除く）

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業            |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
ワークショップやトークイベントを開催することで、次代を担う若者に、新たな価値を創り出すための発想力や創造力を養ってもらう

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
成果発表・講評 聴講者	0 (H30)	70 (R元)	<del>(H )</del>	70 (R元)	600 (R3)	11.7%
ワークショップ 参加者数	0 (H30)	23 (R元)	<del>(H )</del>	23 (R元)	60 (R3)	38.3%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
デジタルファブリケーション（デジタルによる柔軟な設計・製造技術）とブロックチェーン（仮想通貨・暗号通貨の基盤技術）を扱うワークショップを実施した。  
岐阜おおがきビエンナーレと連携して作品展示及び講評・トークイベントを実施した。

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
2つのワークショップに7チーム23人の県内の高校生等が参加し、最先端テクノロジーを活用した作品制作を通じて、発想力や創造力を身に付けることができた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)	<p>第4次産業革命の潮流の中、県の成長・雇用戦略プロジェクトを推進していくためには、新たな価値を創り出せる次世代人材の育成が不可欠</p> <p>これを進めるには、本学が教育・研究課程で行ってきた「新たな価値を創り出せる人材」の育成方法が有効</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン化したところ、参加条件を満たすことのできない学生があったため、学校との連携が必要</p>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul> <p>高校生を含め、発想力や創造力を身に付けた人材の育成は重要な課題であり、より多くの高校生等が参加できるようにして、実施する必要がある。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	ビエンナーレ等イベント開催事業費 <b>【情報科学芸術大学院大学】</b>
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	ビエンナーレの作品に触発されることで、発想力・創造力の一層の向上を期待